

● 教室(診療科)の特色 ●

伝統的な臨床精神医学を基礎として、プライマリケア精神医学と地域の基幹総合病院精神科としての総合病院精神医学の追求にあります。その際、精神疾患を生物—心理—社会—倫理的なモデルとして包括的にとらえ、偏りのない精神科、すなわち mindless psychiatry あるいは brainless psychiatry に陥らない精神科を目指しています。

精神科病床は40床で、精神保健指定病床を5床有し、措置入院への対応も可能です。また、大阪府精神科救急システムのなかで身体合併症治療の指定病院となっており、総合病院精神科として重要な位置を占めています。外来は、1日平均患者数は約120名であり、診療においては精神疾患全般にわたって対応しています。



米田 博(よねだ ひろし)教授(科長)

- 専門分野
機能的な精神病
- 主な学会／専門医資格
精神保健指定医・臨床遺伝学専門医・日本老年精神医学会認定医・精神神経学会専門医
- 研究課題
臨床精神医学、精神科遺伝学

● 教室(診療科)の概要・特徴 ●

特定機能病院ということを生かしながら、入院診療(開放・閉鎖病棟40床)と外来診療を行っています。大学病院らしく特化した専門領域の診療、例えば性同一性障害、PTSD、強迫性障害、てんかん、認知症、児童思春期などが特徴ですが、一般精神科診療も精力的にこなしており、精神保健指定医や精神神経学会の専門医を取得できる体制になっています。また関連病院も多く、地域での精神科医療の研修もできます。研究は精神科遺伝を柱として睡眠覚醒障害、精神薬理、てんかん、児童思春期などのグループがあり活発に活動しています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題等
康 純(准教授)	精神保健指定医、精神神経学会専門医、一般病院連携精神医学専門医	精神科遺伝学、性同一性障害
金沢徹文(講師)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	精神科遺伝学、臨床精神医学
川野 涼(助教)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	てんかん、臨床精神医学
木下真也(助教)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	性同一性障害、臨床精神医学
山内 繁(助教)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	老年精神医学、臨床精神医学
他 助教8名		

- 連絡先：大阪医科大学神経精神医学教室 TEL:072-683-1221
- ホームページ：<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/psy/>

初期臨床研修プログラムの特徴

研修医の目的に合わせて、研修は2ヶ月コース、6ヶ月コース、12ヶ月コースの3種類。

- ・2ヶ月コースでは臨床医として必要な基本的な精神医学的知識、技能の習得を目的とします。
- ・6ヶ月、12ヶ月コースにおいては、基本的な知識の習得に加えて、①精神科特有の疾患・代表的な疾患の診断や治療、②総合病院精神神経科としての特徴である身体合併症を有する疾患への対応やコンサルテーション・リエゾン活動、③専門外来での研修、などの経験を通じて幅広い精神医学的知識、技能の習得を目的とします。

研修内容と到達目標

<12か月コース>

- ・精神症状のとらえ方の基本を身につける。
- ・精神疾患に対する初期対応と治療の実際を学ぶ。
- ・身体疾患に合併して生じる精神疾患・症状の診断や治療の実際を経験する。
- ・デイケアなどを通じた社会復帰や地域支援体制を理解する。

研修を通じて、到達目標に見る代表的な精神・神経系疾患(7項目)の研修を重ねる。外来では予診の取り方、初診担当医のもとで面接法、診察手順、検査、投薬などを学ぶ。病棟では主治医として症例を担当し、精神療法的アプローチや薬物療法を経験する。入院、退院に際しては、精神科独特の法律の規定とその運用、遵守などについても学ぶ。総合病院の特性としての他科との連携や、身体合併症を抱えた症例への対応、コンサルテーション・リエゾン、緩和ケアチームへの参加も求められる。

また地域医療研修として、1ヶ月の関連病院での研修が含まれる。大学病院のような総合病院とは異なった、地域医療の実際を経験する。

当科は多数の専門外来を備えており、各研修医の希望に応じて専門的知識の習得にも対応する。さらに本コースを希望する者には、各研究グループが主催する勉強会や輪読会への積極的な参加を求める。

これらの研修により、将来臨床医として求められる基本的な精神科的知識の習得に加え、主治医として入院患者の診察、検査、診断、治療に積極的に取り組むことにより、幅広い精神医学的知識・技能の習得を目標とする。

<6か月コース>

本コースの内容、目的は、12ヶ月コースと同様である。関連病院での1ヶ月間の地域医療研修も含まれる。

<2か月コース>

このコースは、研修の内容を外来業務に置き、一般外来診察に加えて、コンサルテーション・リエゾン活動にも参加を求める。研修医の希望に応じて、専門外来での研修も可能である。これらの研修を通じて、将来臨床医として求められる基本的な精神科的知識、技能の習得を目的とする。



研修病院群

大阪医科大学附属病院
新阿武山病院
新淡路病院

評価方法

実際に担当した患者はすべて実績表に記載し、指導医の検閲を受ける。また研修期間終了時には、評価表と別に定めるチェックリストを科長に提出する。

週間スケジュール

月曜日	病棟回診 入院カンファレンス、演習
火曜日	外来診察 病棟にて患者診察
水曜日	外来診察 病棟にて患者診察
木曜日	外来診察 病棟にて患者診察
金曜日	外来診察 病棟にて患者診察
土曜日	外来診察 病棟にて患者診察

専門研修プログラム

基幹施設

基幹施設である大阪医科大学精神神経科は、講座開設以来60年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残しています。臨床的知見に立脚した科学的診療態度を特色とし、さまざまなライフステージに応じたきめ細かい臨床を特徴とする教室です。これまでに大阪府のみならず近畿圏や全国で活躍する臨床医や研究者を輩出し、日本の精神医療を牽引する存在となっています。

専門研修プログラムの特徴

精神疾患は、医学だけで語ることができる学問領域ではありません。心理学、社会学、哲学など様々な次元の先端的な知識が必要とされます。研究の分野では、発展の著しい分子遺伝学、薬理学、脳科学を味方にしながら、新しい知見がますます増えています。時代にあった診療・研究に対する科学的姿勢を核に据えながら、積み重ねられた知見と共に患者さんと向き合うことができる診療医をこれからも輩出していくプログラムとなっています。

専門研修施設群



研修ローテーションの事例

本プログラムには都市部の病院のみならず人口減少地域の病院も存在している。また、専門性の高い治療法を学ぶことも可能である。このため地域性や専門性に縛られない柔軟なローテーション選択が可能である。希望によっては二年間同じ病院に勤務することも可能である。

大阪医科大学附属病院、藍野病院(大阪府高槻市)、藍野花園病院(大阪府高槻市)、赤穂仁泉病院(兵庫県赤穂市)、小曾根病院(大阪府豊中市)、新阿武山病院(大阪府高槻市)、新淡路病院(兵庫県洲本市)、新生会病院(大阪府和泉市)、瀬田川病院(滋賀県大津市)、丹比荘病院(大阪府羽曳野市)、ねや川サナトリウム(大阪府寝屋川市)、阪南病院(大阪府堺市)

専門研修プログラムの到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得します。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ばなければなりません。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。なお、各年次毎の到達目標は以下の通りとなっています。

(専門研修プログラムの詳細は、次のホームページを参照ください)
URL: http://psyomc.com/?page_id=198

先輩レジデントのコメント

藤本 健士郎 平成27年度

幅広い精神科ニーズに応える専門的業務を経験

私は2014年に金沢医科大学を卒業し、大阪府内の市中病院で初期臨床研修を修了しました。その後、画像診断や血管内治療への興味から、一度は他大学の放射線診断科に入局しましたが、実際に働く中で自身の特性やキャリアパスについて考えることがあり、また中高生の頃から人とのコミュニケーションや心理に触れる職業への強い憧れもあったため、転科を決意し、2017年度より当医局に入職しました。

現在は、週4回の大学病院常勤に加え、週2回は関連施設である精神科単科病院で非常勤医師として勤務しております。大学病院では日常病棟業務に加えて、外来やリエゾン・コンサルテーション対応などの精神科ニーズに応える幅広い業務を経験することができています。精神科診療の難しいところ(醍醐味でもあるのですが)は、所見の定量化が難しく、「どこからが正常で、どこからが異常か」の線引きが難しいという点です。一部の疾患を除くとゴールドスタンダードと呼ばれる治療法も存在せず、患者さん個人個人の困りごとに応じて、カウンセリング(精神療法)や薬物療法を使い分けながら治療を行うこととなります。私のような初学者にとって、当初はそのような謂わば「行間を読むような」、精神科ならではの治療対応は大変難しく感じられましたが、症例は必ず経験豊富な複数の上級医と共に担当することになるため、先輩諸氏の柔軟な対応を間近で見られることは貴重な経験となっています。また、電気けいれん療法やクロザピン療法の導入といった、大学病院ならではの専門的な治療についても日常的に経験することができています。

一方の非常勤先である単科精神科病院では、数十年を超える長期入院の方や、アルコール・薬物依存の方、身寄りがなく社会資源によるサポートを必要とする方など、大学病院ではなかなか診ることのできない患者さんの診療にも携わることが出来、また違った視点から様々な経験をすることができています。

当科は、先輩後輩の交流も多く、楽しく、明るい雰囲気の良い医局です。私のように他科から転科されてきたスタッフも沢山います。またオンとオフのメリハリがはっきりとしていますので、仕事もプライベートも充実した時間を過ごせます。精神科医としてキャリアを積むという点でも、プライベートを楽しむという点でも、当科はとても魅力的な医局です。研修医の先生のみならず、転科をお考えの先生方も、是非一度見学にいらして下さい。

取得できる認定医・専門医

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医
日本総合病院精神医学会認定専門医
日本老年精神医学会認定医 その他多数

参加学会等

日本精神神経学会／日本生物学的精神医学会／日本総合病院精神医学会／日本臨床精神神経薬理学会／日本老年精神医学会／日本てんかん学会／日本緩和医療学会／GID(性同一性障害)学会
その他多数

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

近年、精神医学は社会の変化を反映したいわゆるストレス関連疾患の他、従来からの中心的な課題である内因性精神病、老年期精神障害、睡眠障害、児童思春期疾患への新しいアプローチも成果を収めつつある。そこで急速に発展している遺伝子解析などの研究手法を用いて、精神疾患をbio-psycho-socio-ethical なモデルとして、包括的に病態を把握できるように、実際の症例や研究を通して学ぶ。

現在の研究テーマとその概要並びに展望

㊦ 遺伝研究／米田 博、金沢 徹文

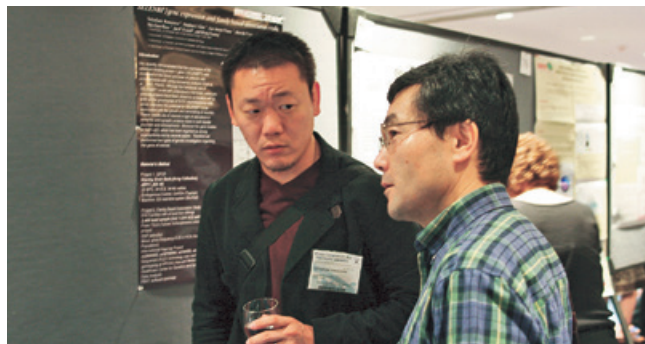
遺伝研究は家系研究、家族歴研究、双生児研究など臨床遺伝学的研究を教室開設以来継続して行っている。さらに、統合失調症、感情障害、アルコール症、アルツハイマー病を中心として、DNA レベルの最先端の研究を行っており、これらの疾患の病因遺伝子の解明を目指している。このうち、統合失調症、感情障害、アルツハイマー病、アルコール症では、病的遺伝子にせまる重要な発見があり、その成果は国際雑誌に発表した。このように臨床遺伝学から分子遺伝学まで、包括的に精神疾患の遺伝要因の解明に向けた研究を行っている。

㊦ 神経精神医学、神経化学研究／米田 博、川野 涼

神経精神医学・神経化学研究は、統合失調症やてんかんなどの疾患を対象に研究を進めている。てんかん研究は、神経生理学的方法や神経放射線学的方法を用いた研究を進めている。統合失調症研究は、神経心理学的、神経学的手法を用いて統合失調症の認知障害と精神症状、治療反応性、予後や抗精神病薬の副作用などとの関連の研究を進めている。またマウスに各種向精神薬を負荷してmRNAの発現をノーザンブロット、in situ hybridization によって検討している。さらにプロスタグランジンや一酸化窒素など諸物質の睡眠・覚醒制御機構における役割を追究している。

主なる関連病院

新阿武山病院／新淡路病院／小曽根病院／藍野花園病院／赤穂仁泉病院／金岡中央病院／水間病院／川越病院／瀬田川病院／寝屋川サナトリウム／丹比荘病院／青葉丘病院／阪南病院／香良病院など



㊦ 児童思春期疾患研究／米田 博、堤 淳

登校拒否、摂食障害などの児童思春期疾患は、成人における精神障害と比較してその症状や治療的対応が異なり、疾病の理解も内因性、心因性というように割り切って考えることが困難なことも多い。そこで、これらの疾患に対応するために特殊外来が設けられている。そこでの臨床を通して、児童思春期疾患の治療、予後、下位分類などについての研究を続けており、精神病理学的立場からの研究も進めている。

